

題名 世界平和のために私たちができること

鹿沼市立北中学校 (氏名) 高橋 真央



私が資料館で目を引かれたのは、黒く焦げた、被爆者の遺品です。実物だからこそ、当時の惨状を強く想像させられました。また、後遺症に苦しむ人々の姿から、原爆には、たった一度で、その後の人生に大きな影響を及ぼす力があるのだと、改めて考えさせられました。

式典では、「平和への誓い」にあった「被爆体験を直接聴くことができる最後の世代」という言葉が印象に残りました。戦後81年が経ち、戦争経験者は、少なくなってきました。今回、被爆者の講話を聴いて、経験者にしか語ることのできない当時の様子や思いがあることを知りました。平和な世の中を目指すため、この経験を風化させず、これからの世代まで継承する必要があります。

今の私たちにできることは、この経験を身近な話題にし、多くの人に自分ごとのように捉えてもらうことだと考えます。私は、今回の派遣を通して考えたことを、文化祭などの機会を使い、たくさんの人々に伝えていきます。